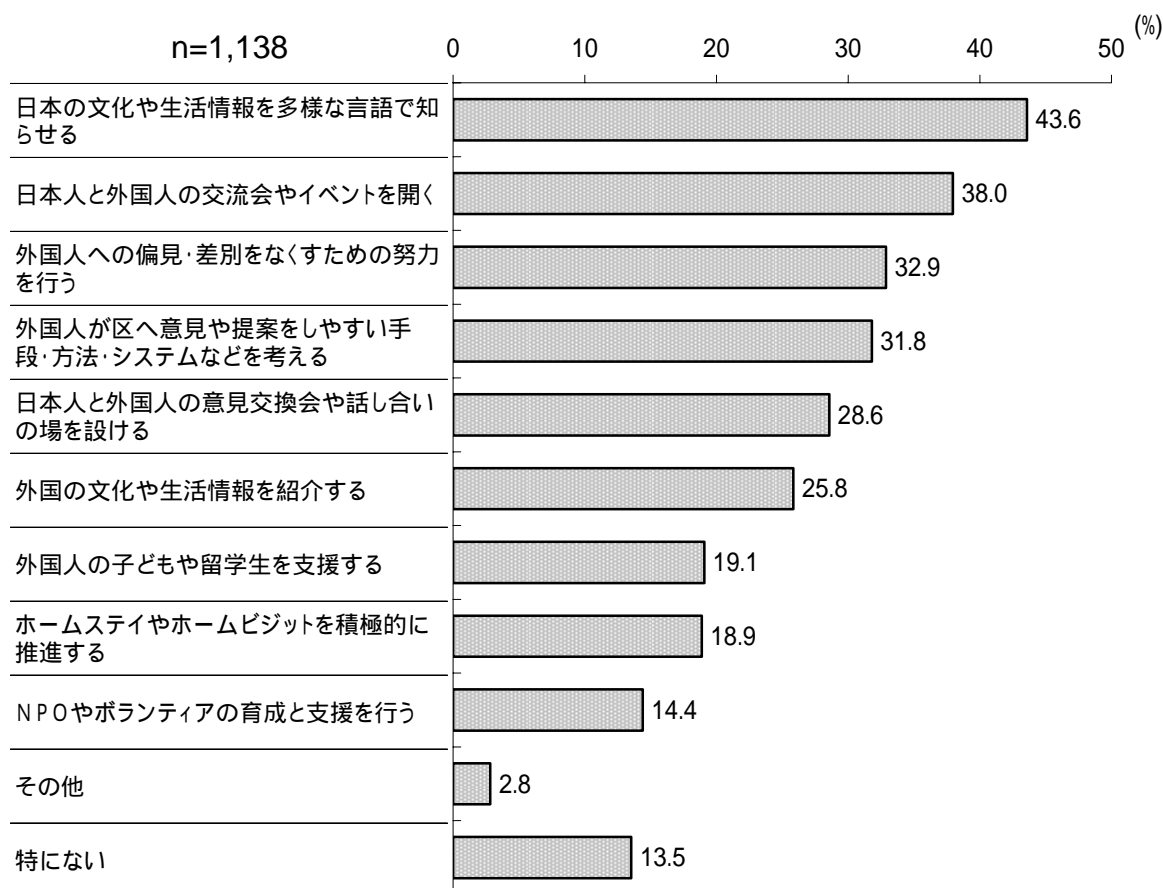


6 . 国際化推進

(1) 外国人と共に暮らすために必要な取り組み

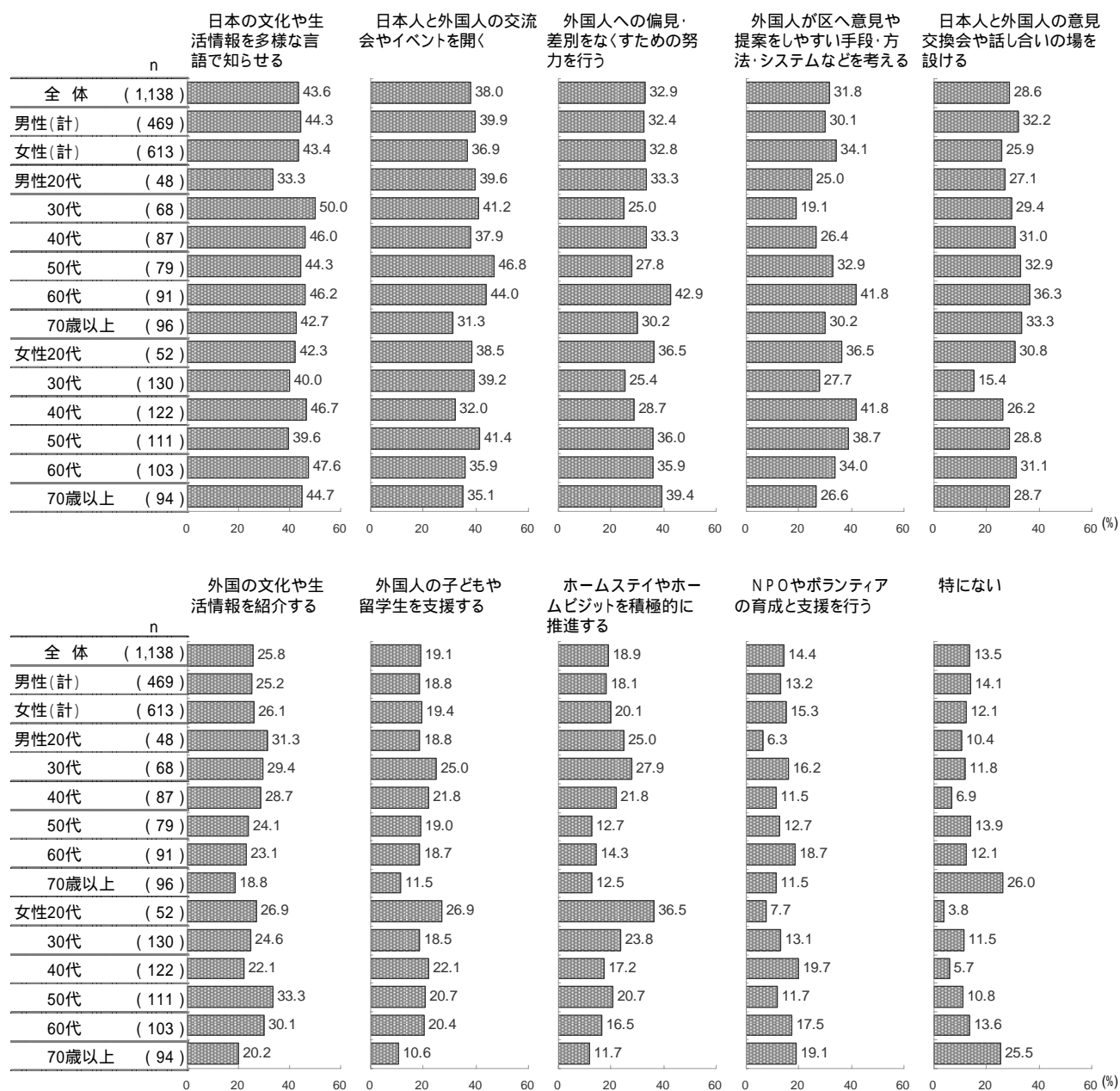
(全員の方向)

問 14 . 地域の外国人と理解しあい、共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進するために、区の対応としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(いくつでも)



- 全体でみると、「日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」(43.6%)が最も高く、次いで「日本人と外国人の交流会やイベントを開く」(38.0%)、「外国人への偏見・差別をなくすための努力を行う」(32.9%)、「外国人が区へ意見や提案をしやすい手段・方法・システムなどを考える」(31.8%)、「日本人と外国人の意見交換会や話し合いの場を設ける」(28.6%)、「外国の文化や生活情報を紹介する」(25.8%)の順となっている。

[外国人と共に暮らすために必要な取り組み - 性 / 年代別 (上位 10 項目)]

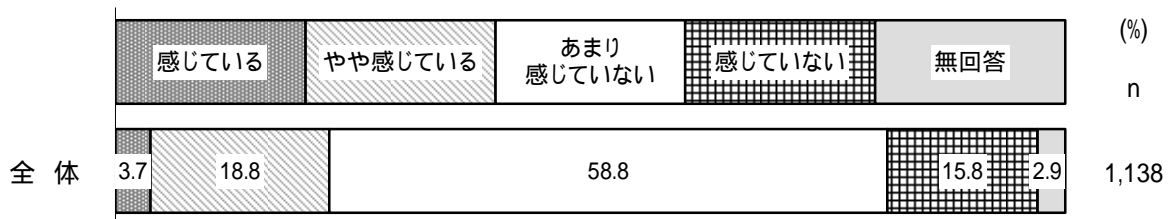


- ・ 性別にみると、「日本人と外国人の意見交換会や話し合いの場を設ける」では男性が女性より 6.3 ポイント高くなっている。
- ・ 性 / 年代別にみると、「日本の文化や生活情報を多様な言語で知らせる」では男性 30 代で 5 割と高く、「ホームステイやホームビジットを積極的に推進する」では女性で年代が低くなるほど割合が高くなる傾向にある。

(2) 多文化共生、国際交流の進捗度

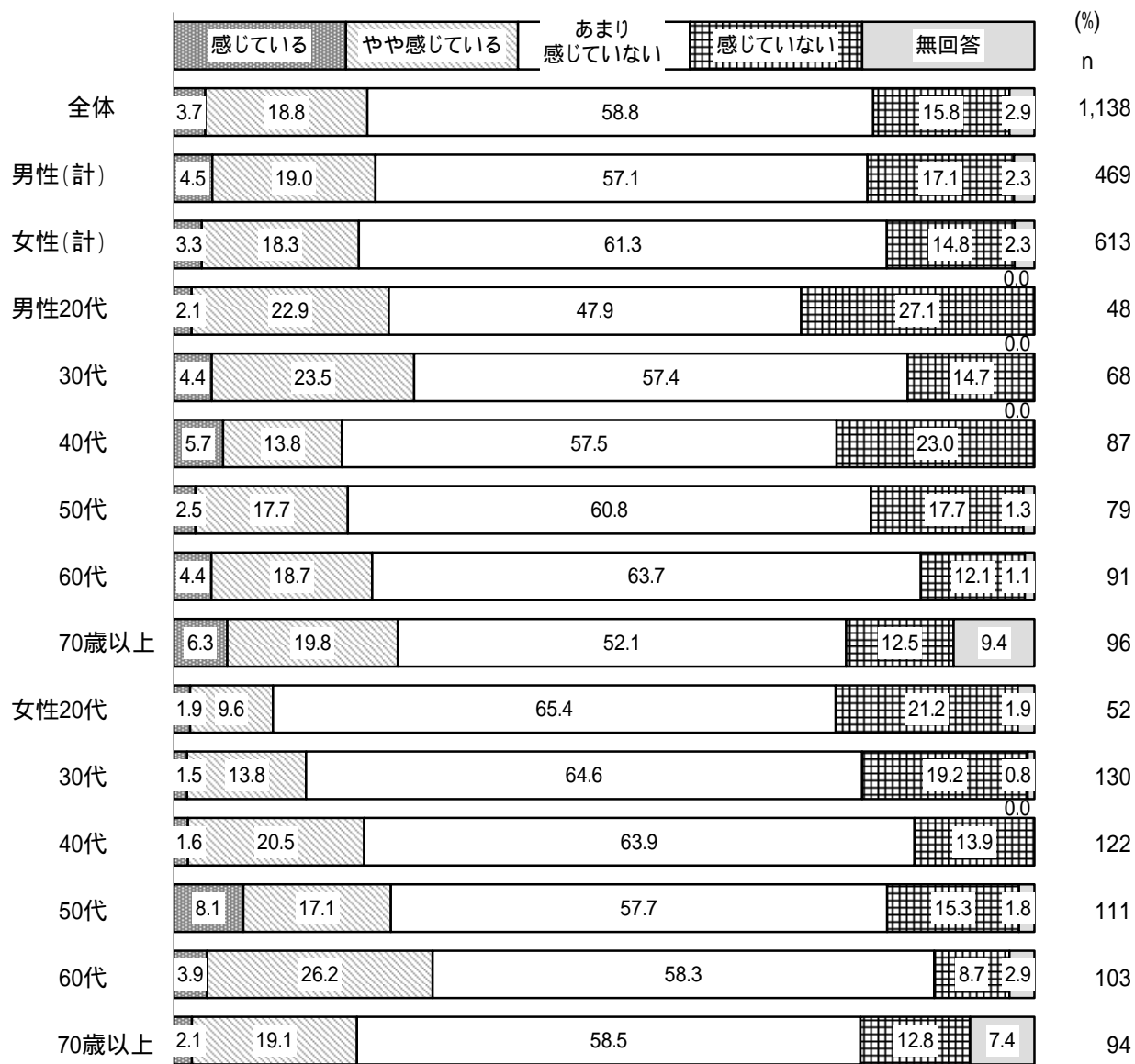
(全員の方に)

問 15. 大田区は多文化共生、国際交流が進んだまちと感じていますか。(1つだけ)



- ・ 全体で見ると、「あまり感じてない」(58.8%)が6割程度となっており、次いで「やや感じている」(18.8%)、「感じていない」(15.8%)が1割強となっている。
- ・ 「感じている」(3.7%)と「やや感じている」(18.8%)を合わせた『国際交流が進んだまちと感じている(計)』は2割強となっている。

[多文化共生、国際交流の進ちょく度 - 性 / 年代別]



- ・ 性別にみると、男女間で大きな差はみられない。
- ・ 性 / 年代別にみると、『国際交流が進んだまちと感じている（計）』が最も高いのは、女性 60 代（30.1%）、次いで男性 30 代（27.9%）、男性 70 歳以上（26.1%）、女性 50 代（25.2%）の順となっている。